

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
11	川崎市立 小田小学校	松田 善仁

学校教育目標	今年度の重点目標
考える力 感じる心 たくましい心と体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着と考えることの楽しさを知り、自分は今、何をすればよいかを考え、判断することができる力を育てる</li> <li>・自他共にある人権を大切にし、心地よい生活ができる態度や豊かな感性を育てる</li> <li>・前向きに明るく生活し、粘り強く頑張ることができるたくましい心と進んで体を動かす喜びを感じる心と体を育てる</li> <li>・150周年事業を通して充実した学校生活ができるとともに、地域・保護者の理解と信頼を得、両輪で児童の成長を促す。</li> </ul>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習への主体的な関わりと基礎基本の習得	一人一人が主体的に学習に取り組めるよう、体験的な活動、みんなが分かる授業を重視する。また、基礎基本を確実に習得させるために、身につけさせたい内容や能力を明確にした授業の実践に努めるとともに、自ら学ぶことによる基礎基本の習得にも力を入れていく。 また、習熟タイムや帯学習の時間を確保することで、基礎基本の学習の反復や定着を高める。	新型コロナウイルスでの制限がなくなり、学校教育を行う内容が広がった。授業においては、毎時間課題を明確にすること、自分で考える時間の確保、話し合い活動による練り上げの場を設ける、関連問題を解くなど、授業形態や展開に工夫をし、みんながわかる、楽しい授業をめざしてきた。その成果はみられてきており、学習活動に意欲的、主体的に取り組む児童が増えてきているし、授業がわかったと感じる児童が増えてきている。しかし、基礎基本の習得に関しては、学習習慣や環境による学力差は大きく、取り出し指導や入り込みによる支援にも力を入れている。習熟タイムや帯時間の活用をより充実したものに、行っている。意欲の高まりはみられるが、基礎基本の定着には時間がかかっている。	学習指導要領のもと、教育課程の編成を行い、進めている。考えることが楽しい、みんなで学び合うことが楽しいと思えることが一人一人の意欲や主体性を導くために大切なことと捉え、体験的な活動や表現活動などを積極的に取り入れ、学習への興味関心や意欲を持続させていくこと。基礎基本の習得及び定着のために、取り出しと入り込みの指導をより効果的に行える体制に改善しながら、次年度以降も継続していきたい。また、習熟タイムや帯学習の定着とその学年に必要な具体的な授業展開を作りながら、今行っている授業を継続させていく。
2 思考力・判断力・表現力の育成	推進校として培った授業を大切にしながら、グループ学習や話し合い活動の授業形態を多く取り入れたり、問題解決的な学習を取り入れたりしながら、自分の考えや意見を持ち、それを伝えたり、表現し活用したりする授業の実践に努める。	推進校での授業実践を生かし、日々の授業実践を通して、課題を明確にすることにより問題解決的な学習を進め、自分の考えを持つことやそれを伝える力を育ててきた。また、算数科を中心として授業研究を行うことで、さらに自分で考える楽しさを感じ、伝えるために表現する意欲の高まりは見られているが、まだこれからも継続していくことが必要である。また、自分の考えを相手に伝える言語力の育成が課題である。	指導と評価を単元の中で明確にし、しっかり定着させるところと児童にしっかり考えさせるところを各学年で話し合い、次年度に生かしていくようにする。そして、課題(問題)解決的な学習を進め、自分で考え意欲を定着させる。その後、全体で考えを出し合い、問題解決を行っていく。その中で、自分の考えを伝えるための表現力を育成していく。学習指導要領に合わせた教育課程と本校独自の横断的教科の教育課程のカリキュラムマネジメントを毎年積み重ねていく。
3 ともに学ぶ楽しさの実感	自他の考えや思いを大切にしながら、ともに学び合うことにより、学ぶ楽しさを実感できる授業実践に努める。	取り組んできたキャリア在り方生き方教育の研究実践を生かし、授業の中での話し合い活動やグループでの学び合いをする場面が定着してきた。お互いの意見や考えを受容し合う雰囲気も生まれてきており、自分の考えを進んで発言したり、学びあったりすることの楽しさを実感し始めている。また、基礎基本の大切さも理解してきている。	お互いの意見や考えを認め合う受容的な意識はどのクラスにも生まれてきているので、今後は、意見を交換し合いながら学び合うことにより、考えが深まっていく手立てを進めていきたい。また、基礎基本の定着のための手立てを継続していき、共に学ぶ楽しさを感じさせていきたい。それに向けた授業作りも進める。
4 優しい心と豊かな感性の育成	異学年の交流活動や道徳、集会活動等を通して、人の気持ちを感じ取れる優しい心を育てる。また、読書や音楽、体験活動等を通して、豊かな感性を養うとともに、言語環境や教室環境を整えることに努める。	異学年交流の「なかよし活動」が継続して行われており、その成果がみられてきたことを教職員が強く実感している。学年を問わず、みんなが仲良くできるようにしよう、そのために相手の気持ちを考えようという気持ちと姿勢が芽生えてきている。また、言葉環境・教室環境の充実を進めている。	学校の教育活動全体で子どもを育てていこうというキャリア在り方生き方教育を基本に、各教科で心の育成を進めている。そして、児童会活動を通して全児童の心の交流が進めているので、継続していく。朝の読書活動は、読み聞かせも含めて定着するように、今後は、内容の充実を図っていく。また、図書室環境が充実してきているので、それを生かした活動を継続して行っていく。
5 責任感や自主性の育成	当番や係、クラブ・委員会活動等を通して、自分の役割や仕事を責任をもって最後までやりぬくように指導する。また、集会や縦割りの活動、行事の実行委員会等の活動を通して、判断力や自主性を育てる。	児童の手によるクラブ設立や委員会活動の見直しをするなど、時間をしっかり確保することで、児童の主体性を重視した児童会活動の取り組みが数多く見られている。また、150周年記念式典では、今までの積み重ねた力が発揮され、児童にとって納得のいく内容になった。日々学校生活において、低学年においても学級の当番や係活動に進んで取り組む姿としてみられている。課題としては、活動や考えを深め、広げることがまだまだである。そこに、今まで以上に職員が寄り添ってほしい。	特別活動では、子どもたちが主体的に活動に関わり、自分たちで活動をつくり上げていくことを大切にしてきた。その成果として、自主的に活動を進めることが当たり前としてできるようになってきている。今後も粘り強く活動を続ける姿勢や責任感を持つ支援・指導をしていく。

6	人とのかかわり方	あいさつの奨励、集団の一員であることの自覚を促すことなどを通して、社会性を育てる。	朝のあいさつ運動はかなり定着してきており、多くの児童の声がかえってきている。共生・共育プログラムの実施と効果測定による、人間関係づくりや学級づくりを継続して行っており、いじめなども含めた成果も出てきている。しかし、個々の子どものなかにはまだまだ人間関係をうまく築くことのできない子がいる。	作成した共生・共育の学級ごとの目標及び年間計画をもとにして効果測定で学級の実態を把握しながら計画的にプログラムを実践した。来年度以降も継続していく。あいさつは、自主的に行えるようにさらに環境を充実させていく。また、人間関係作りの問題点の把握だけではなく、早急に対応するような学校体制作りをより強固にしていく。
7	健康な生活と体力の向上	健康安全指導やキラキラタイム等を通して、自身の健康に関心をもったり、進んで体力作りに取り組んだりするよう指導する。また、体育の授業を通して、日常の生活で体を動かすことや健康の大切さに気付く心を育てる。	保健委員会や給食委員会の朝会での健康や安全への意識付けを図る活動は定着してきており、効果も上がっている。栄養士による給食指導を年間数時間行うことができた。運動委員会主催の運動集会を昨年度に引き続き、実施した。体力の向上には至っていないが、意識付けにはなったと思う。しかし、体力の向上にはまだまだ多くの課題がみられる。	新型コロナウイルスにより、キラキラタイムや体育の授業が今まで通りに行うことができなかった。しかし、昨年度よりは、健康な生活を行うために、大切なことを学級活動などで指導・支援を行い、子ども達の活動に変化はみられてきている。普段の生活を見直すきっかけになった。課題としては、体育学習はもちろん、キラキラタイムなどで学校として計画的に体力向上に取り組んでいく。
8	人権尊重	一人一人の個性を尊重し、人権を尊重する意識や態度を身に付けられるように努める。川崎市子どもの権利に関する条例や川崎教育プランで謳われている共生・協働の考えを再確認し、教職員と子どもがともに人権意識を高められるようにする。	いじめや暴力を許さず、教師による体罰などを根絶することは当然のことであり、人権尊重を基盤とした教育理念のもと学校運営を行っている。また、体罰・いじめ等では、すぐに関係会議を開き対応をしている。また、熱心な教師から児童に対し強い言動が見られた場合にはすぐに児童と保護者に対応した。また、職員全体に話をしたり、研修等を行ったりするなど全体に周知し、継続的に行っている。	共生・共育プログラム年間計画を生かし、エクササイズを通して、よりよい人間関係づくりやSOSの出し方を知らせるなど多面的に行っていく。川崎市子ども権利条例を児童一人一人に理解させ、キャリア在り方生き方教育を通して人権意識を育てていく。また、いじめや体罰等の研修を通して、教職員の人権意識も高めていく。また、児童へのSOSの出し方の研修を通し、児童だけではなく、教職員の人権意識を高めていった。
9	児童指導	児童の実態を把握し、共有することにより、問題行動やトラブルを未然に防ぐ取り組みを進める。問題行動や児童間のトラブル等が起こったときは、迅速に対応し、保護者への説明や対応を誠実に進めることに努める。	児童支援コーディネーター・教務主任・養護教諭・学年主任・管理職を中心とした児童支援グループ会議がしっかりと機能し、情報を共有しながら協力して児童理解及び指導にあたることができている。また、支援グループだけではなく担任とともに、迅速かつ誠実な対応ができている。課題は、学校全体での対応は機能しているが、学級・学年での対応がまだまだ弱いこと「報・連・相」の徹底である。	児童支援グループ会議が定着してきたので、全教職員で児童理解を進め、指導にあたることをさらに推進していく。個別支援の経年変化は、年度引継ぎでしっかり話し合われてきている。児童の学校での様子を積極的に発信し、今まで以上に保護者の信頼と協力を得られるようにしていく。
10	防災安全	「学校防災安全マニュアル」や避難訓練、防災教育を通して、学校の安全対策を進める。	「学校防災マニュアル」の内容を毎年更新し、そして、職員への周知徹底していく。避難訓練は、その都度反省をしっかりと行い、訓練内容も充実し、児童の態度、意識が年々高まってきている。今年度も津波避難訓練などいろいろな場面を想定した訓練を通して問題点を出し合った。来年度に向けてさらに改善を行っていく。	総合防災訓練時の児童引渡し訓練を行った。保護者の理解はでき、比較的スムーズに行われた。今後も、学校の安全対策について保護者への周知に努め、児童の安全に関して協力して対応していけるようにする。今年度も行ったが、防犯研修も継続して行っていく。
11	地域との連携	学校教育推進会議や学校公開の場を通して、地域への理解を図るとともに、総合的な学習や各教科の学習の中で、地域の教育力を生かした教育活動の充実を図る。	キャリア在り方生き方教育を通し、「私たちの町川崎」の視点から、地域学習や地域の方たちとの関わる活動を見直し、充実させた。低学年の町たんけん、中学年の地域探しや福祉体験、高学年の杜明パレードなど、それぞれの学年での地域学習は定着している。中学年は、ゲストティーチャーを学校にお迎えしたり、インタビューに行ってVTRを作成するなどをして昔の街や商店の様子についての学習に変更した。児童はしっかりと学習することができ、よかった。ただ、これから先はどのような形で行かか今後の課題である。	各学年の地域と関わる学習は、定着していると同時に活動も年々工夫されているので、今後もこの方向で継続していく。今年度は新型コロナウイルスが解除になったので、全校公園美化活動ができ、児童の地域への意識付けができた。また、運営委員会でごみ捨て防止ポスターの作成を各学級に募り、地域の掲示板に貼ってもらう活動を行うなど、形を変えながら、主体的に地域と関わっている。この姿・活動を今後も継続させていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>学校教育推進会議の中でいただいた意見や感想</p> <p>今年度は、昨年度以上に多くの教室や授業参観を行っていただいた。ただ、児童との意見交換は行うことができなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参観をして子どもたちが進んで発言したり、グループで助け合って学習を進めていたりする姿に本校のよさであると感じた。</li> <li>・地域とのつながりを大切さにしていこうと形を変えて学習していることを聞き、地域に出での体験ができなかったことは残念であると感じていた。</li> <li>・教員からの話を通し、自分たちの学校をよくしようと主体的に活動している様子が分かった。</li> <li>・クラス前に掲示している図工・書初めの作品やクラス目標を拝見し、子どもたちの成長を感じていた。</li> </ul>	<p>「算数科」の研究を中心に授業実践を進めてきた。その成果として、学校の教育活動全体で子どもを育てていく共通理解が全職員ででき、深まってきている。特別活動を通して育った自主的な姿が教科学習で生きたり、教科学習で育った友達と関わる力や意欲が児童支援に生きてきたり、児童支援を通して育った心が教科学習や特別活動の中で表れたりとして全ての教育活動につながっているのを感じるし、成果が少しずつではあるがみられてきている。継続していくよさを再度確認できた。また、取り組んでいる教科の横断については深まりがみられている。来年度は、より全教員が教科指導の工夫の仕方を考え、自信をもって授業を行っていけるように授業力の更なる高まる雰囲気を作っていく。</p> <p>児童の自主的な活動が増えてきたこと、なかよし活動などを通して心の豊かさや優しい感情が芽生えてきていると評価できる。保護者の学校への参加機会がふえた。来年度は、今年度以上に子どもたちの活動や取り組みのよさを伝えていく場を工夫していこうと思う。児童支援COが保護者や児童指導に関わるが増えてきた。来年度は、児童支援COの仕事や活動、そして、カウンセラー訪問の情宣を今年以上に行っていきたい、さらに保護者にとって身近な存在と感じていただけるように伝えていく。</p>